

W01a 「すざく」衛星搭載硬 X 線検出器広帯域全天モニタ部 (HXD-WAM) の現状 (V)

寺田幸功、田代信、浦田裕次、恩田香織、遠藤輝、鈴木正信、小高夏来、守上浩市 (埼玉大)、深沢泰司、大野雅功、高橋拓也、上原岳士、吉良知恵、花畑義隆 (広島大)、山岡和貴、中川友進 (青学大)、杉田聡司 (青学大, 理研)、玉川徹 (理研)、中澤知洋、榎戸輝揚 (東大)、洪秀徴 (日大)、牧島一夫 (東大, 理研)、高橋忠幸、国分紀秀、鈴木素子 (JAXA/ISAS)、山内誠、園田絵里、前野将太、田中裕基、原龍児 (宮崎大)、田島宏康 (SLAC)

2007 年秋季年会に続いて、X 線天文衛星「すざく」に搭載された硬 X 線検出器 (HXD) の広帯域全天モニタ部 (WAM) の現状を報告する。HXD は、光軸上の天体を対象にした 10–700 keV における高感度な観測だけでなく、反同時係数用の BGD シンチレータ群 20 本を用いて、全天の明るい天体を対象に、50 keV から 5 MeV までの X 線エネルギースペクトルが取得できる。打ちあげから二年以上を経た今でも、HXD-WAM に用いるユニット群も正常に動作を続けており、ガンマ線バースト、太陽フレア、軟ガンマ線リピータなど多数の突発天体現象を検出している。今回の報告では、前回の秋季年会以後の WAM 検出器の経年変化の状態や、Konus, RHESSI, Swift などの軌上同時校正試験の結果、ガンマ線バーストや太陽フレアなどの検出の現状について報告する。